平成３１年３月２日

平成 30 年度文部科学省委託事業「専修学校グローバル化対応推進支援事業」

香川県内在住の専門学校留学生への意識調査
調査報告書

－平成３０年度－

一般財団法人 香川県専修学校各種学校連合会

【目次】

Ⅰ. 調査概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

Ⅱ. 調査内容
1. 調査対象の属性
①性別・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
②国籍・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
③年齢・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
2. 留学の目的と日本語能力
①留学の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
②在籍学校における専門分野・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
③取得している日本語能力の資格・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
3. 留学生の暮らしぶり
①１カ月の家賃・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
②１カ月の食費・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
③１カ月の光熱費・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
④１カ月の携帯料金・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
⑤１カ月のアルバイト収入・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
⑥アルバイト先・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
⑦１週間の労働時間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
4. 卒業後の展望
①卒業後の進路・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
②日本でどのような仕事がしたいか・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
③日本で何年くらい働きたいか・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
④日本での就職にあたって不安なこと・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

Ⅲ. 調査結果まとめ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

Ⅳ. ヒアリング個票・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

Ⅰ．調査概要

本県の人口は、平成7年に（約102万人 国勢調査より）ピークを迎えた人口が減少し始め、平成52年に約77万人（日本創成会議・人口減少問題検討分科会試算より）にまで減少することが予想されている。中でも年少人口・生産年齢人口の減少は深刻で現在の67万人から平成52年には、48万人まで減少する事が予想されている。

このような状況の中、優秀な外国人留学生の受け入れを拡大し、将来質の良い働き手を確保・増加させることは地方都市においても喫緊の課題となっており、既に香川県、高松市においては具体的施策として動き始めている。

専門学校で学ぶ外国人留学生はそのほとんどが、専門的知識・技術を生かして日本に定着すること、あるいは10年スパンで日本で就労しその後は経験を生かして母国との懸け橋となる事を望んでいる。

これまで東京・大阪・宮城・広島・福岡といった中核都市で実施されてきた留学生のアシスト事業はいま、地方の地方である香川県においても取り組みが始まったところである。

本調査は香川県内企業における外国人留学生の実情を探るべく、大企業から中小企業へのヒアリング調査及び外国人留学生へのヒアリング調査を実施した。

調査手法は、企業を訪問してのインタビューと外国人留学生へのインタビューと定性調査形式で行い、アンケートなどによる定量調査の数字では表れてこない本音を明らかにすることを目的とした。このようなエスノグラフィーインタビューは、現場での問題を、企業それぞれの置かれた立場（文脈）の中で、より深く探ることに長けている。ヒアリングから、現在香川県および地方都市が抱える人材の問題、外国人就労の可能性を、各企業や地域が抱える問題の中で捉える事で、専門学校として地域の要望に応える人材の育成につながり、企業にとっては地域の労働問題を解決するヒントになることを目的に実施している。

香川県内在住の専門学校留学生への意識調査　調査方法

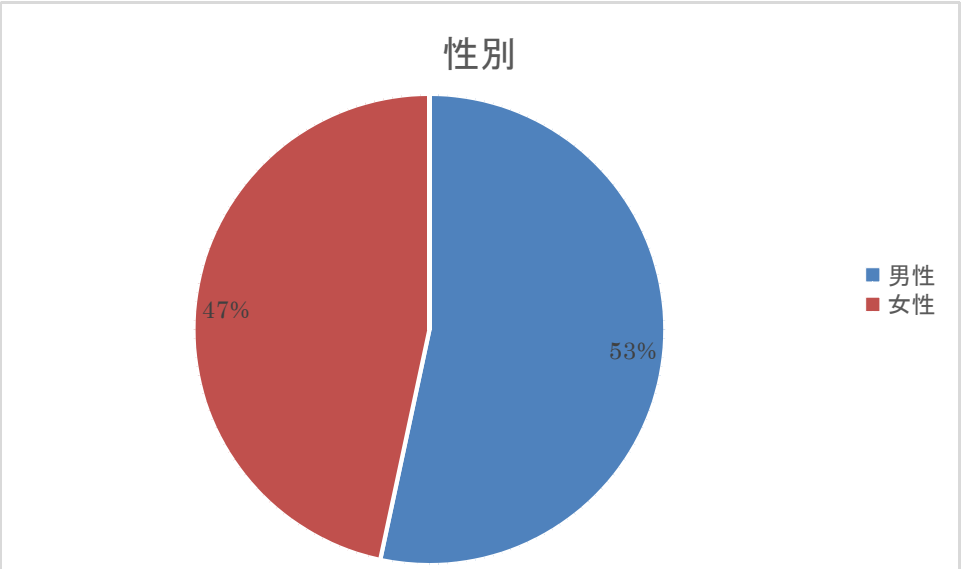
香川県の学校に通う留学生30名について、留学の目的や暮らしぶりと卒業後についての意識調査を行った。卒業後はある程度の期間、日本で働いてから母国に戻ろうと考えている、彼らの展望が見えてきた。

調査方法
■調査対象／留学生30名
■調査方法／ヒアリング取材
■調査期間／2018年11月19日、20日、26日　穴吹ビジネスカレッジ日本語学科
2018年11月22日　穴吹パティシエ福祉カレッジ
2018年11月27日　穴吹工科カレッジ

Ⅱ. 調査内容

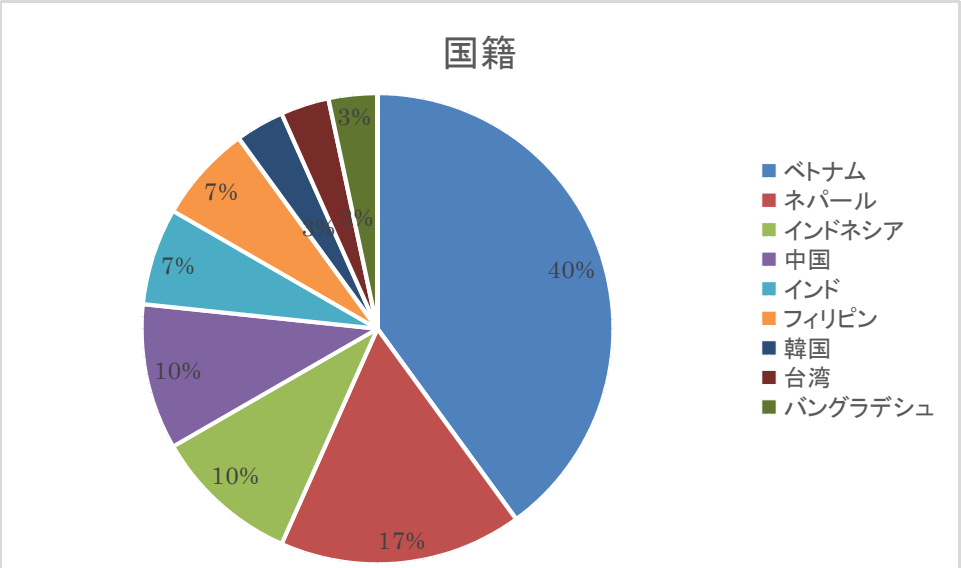
1. 調査対象者の属性

1-①　留学生の性別



男女に差はほぼ見られなかった。日本への留学に関して、性別による動機の違いはないようである。

1-②　留学生の国籍

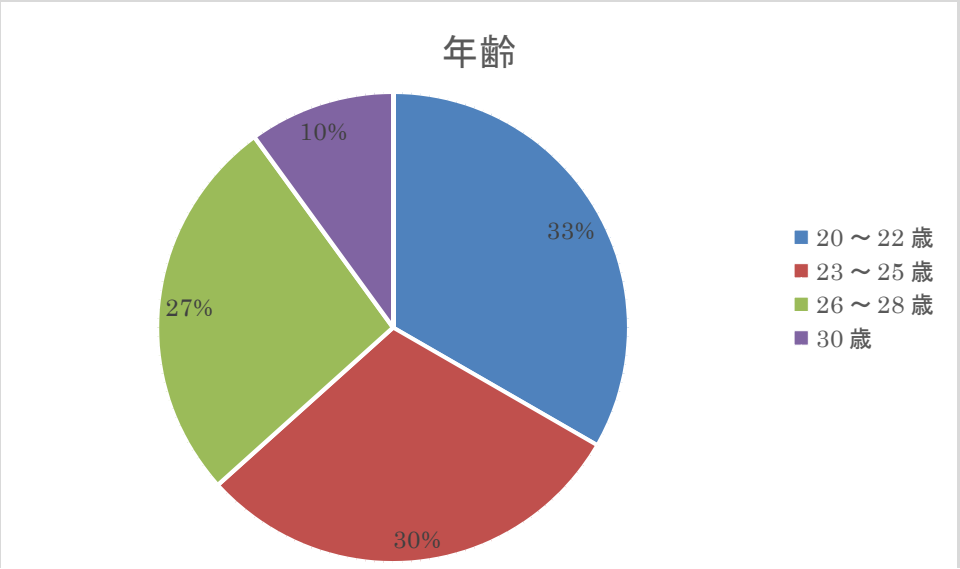


全員アジア圏からの留学生である。その中で、ベトナムからの留学生の割合が 4 割と目立って多い。ベトナムは日本の文化や技術が深く浸透しており、留学先としての優先順位が高いようだ。

ちなみにベトナムの人口は 9,500 万人強。年齢構成は 15 歳未満が約 24%、15 歳以上 65 歳

未満が 70.3%、65 歳以上が 6.1%と若く、人口に占める労働力の割合が増加する「人口ボーナス」が続くと見られる。日本への潜在的な留学生を多く抱えていると言える。

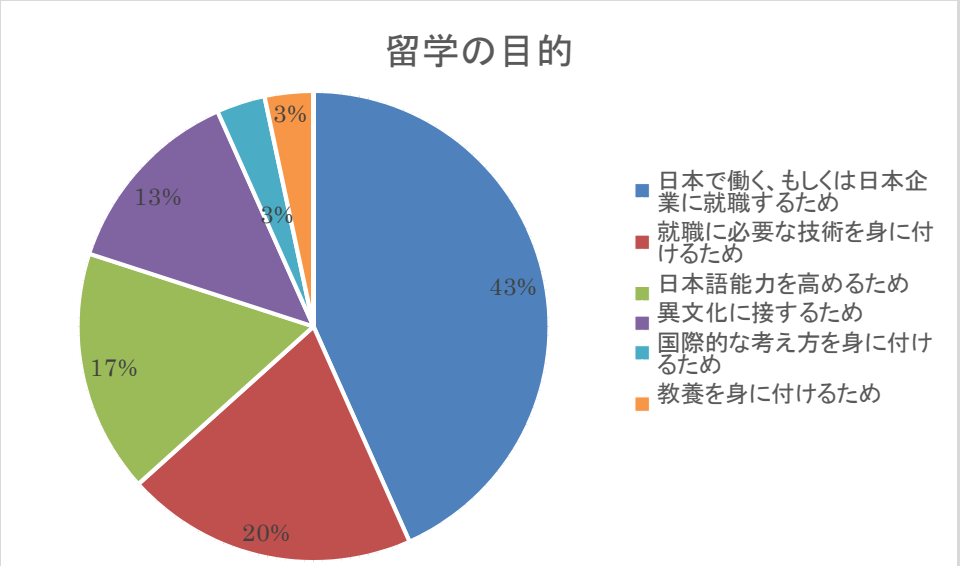
1-③　留学生の年齢



20 代で留学がする人が 9 割を締めており、残りの 10%も 30 歳である。若いうちに日本で学びたいという意志が感じられる。

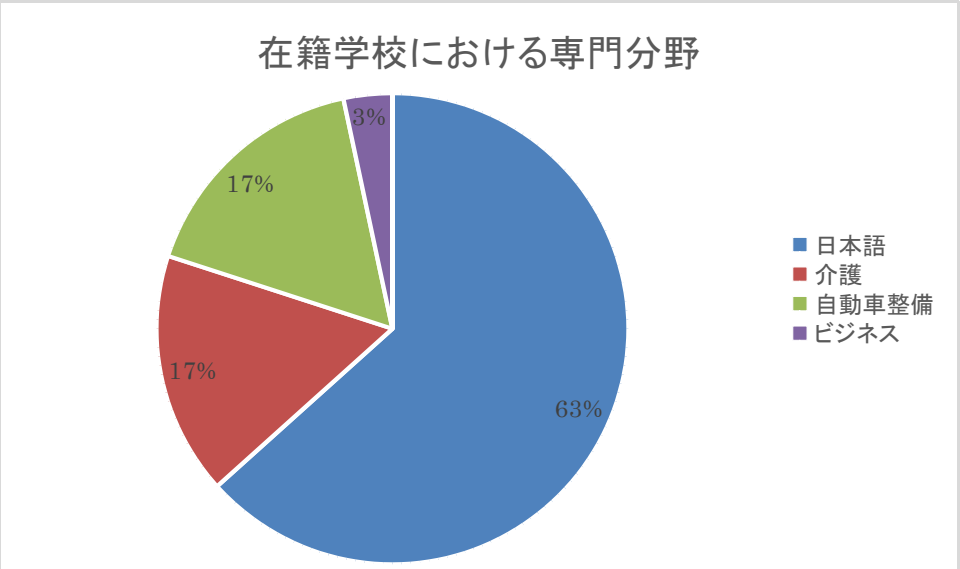
2. 留学の目的と日本語能力

2-①　留学の目的



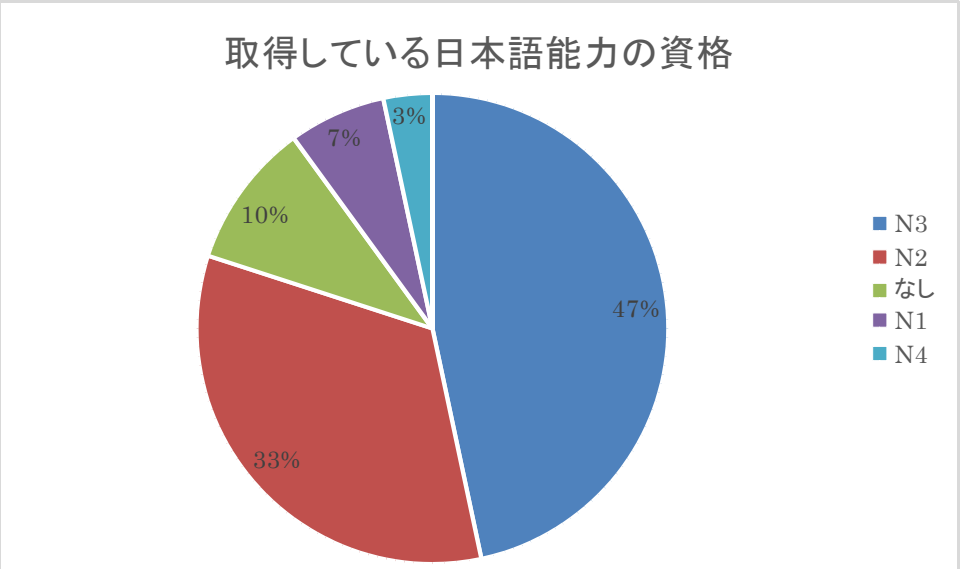
卒業後、すぐに働く意志を持っている「日本で働く、もしくは日本企業に就職するため」と「就職に必要な技術を身に付けるため」を合わせると６割を越える。ここには人手不足に悩む地元企業にとってチャンスがある。「日本語能力を高めるため」と回答した留学生も、仕事内容によっては就職が視野に入っていると考えられる。

2-②　在籍学校における専門分野



日本語の習得を目指す留学生が６割を越える中で、「介護」「自動車整備」と明確な目的意識を持つ留学生が３割以上存在する。香川でどんな専門知識が学べるのか、各国で周知することで、さらに留学生の関心を高めることができるのではないか。

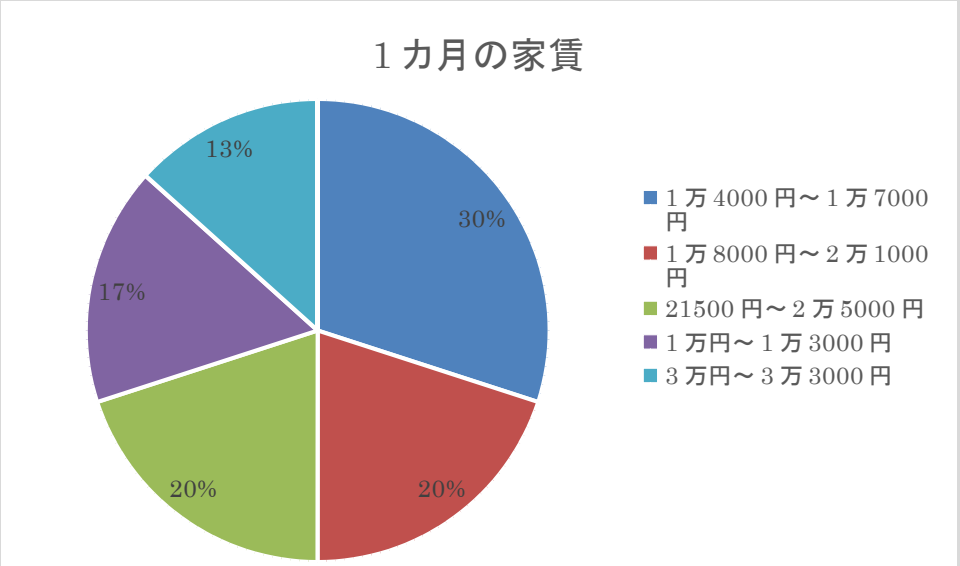
2-③　取得している日本語能力の資格



N3 と N2 を取得している留学生を合わせると 8 割以上となり、すでに日本語での日常会話に問題がないレベルである。日本での就職に大きな問題はない。この結果を逆に考えれば、ゼロから日本語を学べる環境が整っていれば、さらに多くの留学生を呼び込める可能性がある。

3. 留学生の暮らしぶり

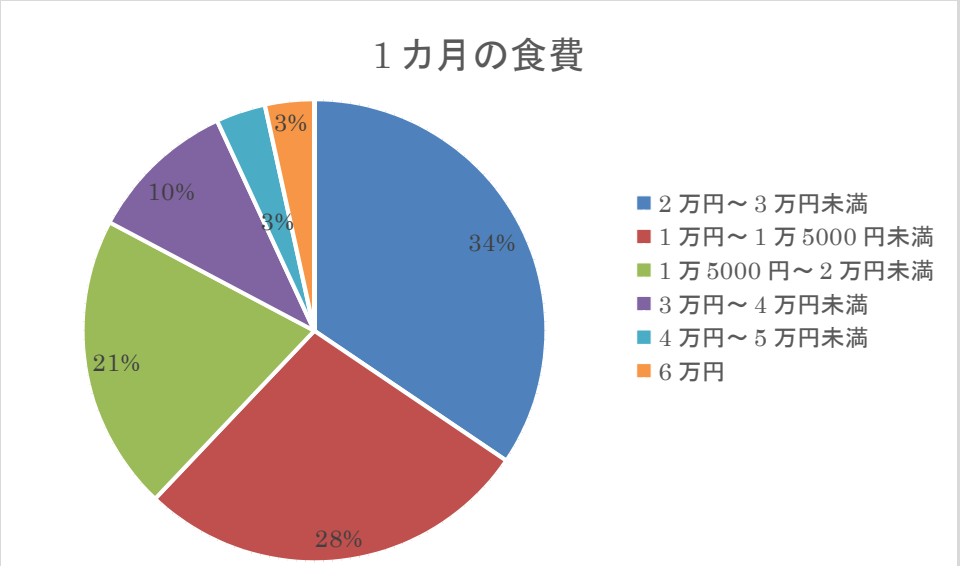
3-①　1カ月の家賃



◎平均　19,817円

香川の家賃相場から考えても、かなり低めの家賃である。築年数、駅からの距離など、なんらかのデメリットを抱えるアパートかもしれないが、ルームシェアやシェアハウスも含まれていると考えられる。

3-②　1カ月の食費（有効回答29人）

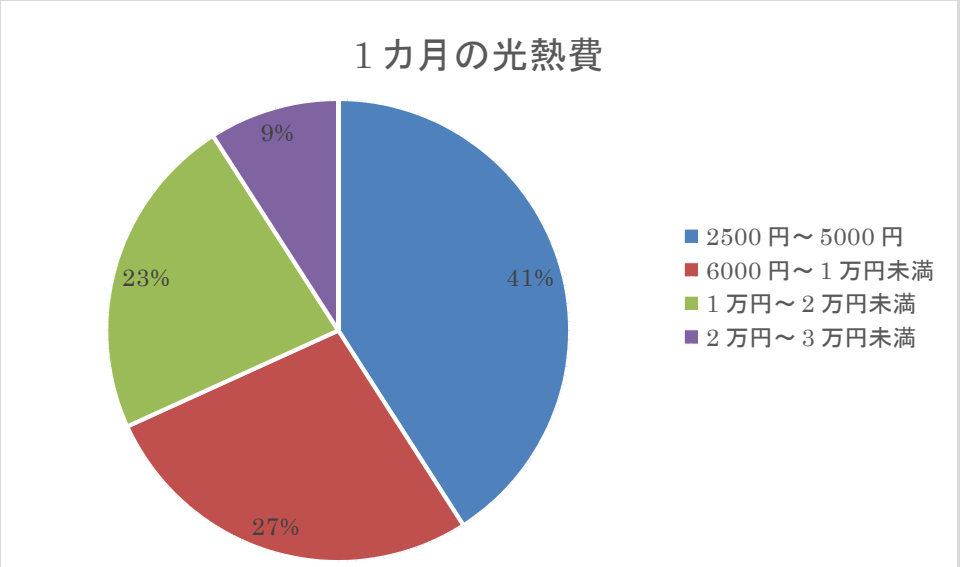


◎平均　20,241円

◎1日当たり　653円

1 日当たり 653 円と、食費の金額はかなり低い。外食だけに頼るのは難しい金額なので、自炊がメインと考えるのが妥当である。

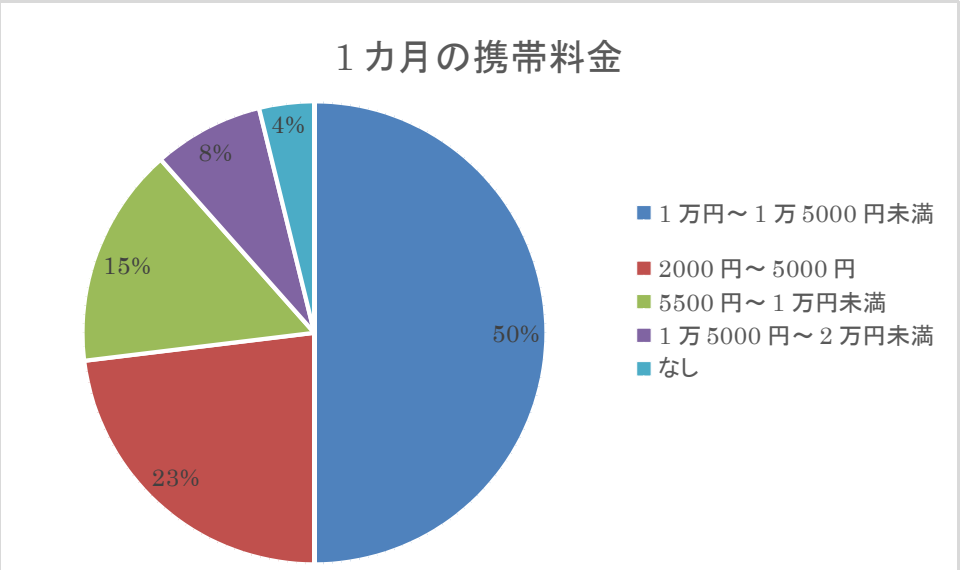
3-③　1 カ月の光熱費（有効回答 22 人）



◎平均　8, 386 円

日本の一人暮らしの人の平均光熱・水道費は約 1 万 3, 800 円。留学生の平均金額は、その約 6 割となる。質素な暮らしぶりがうかがえる。
※出典：2017 年総務省「家計調査報告（家計収支編）」

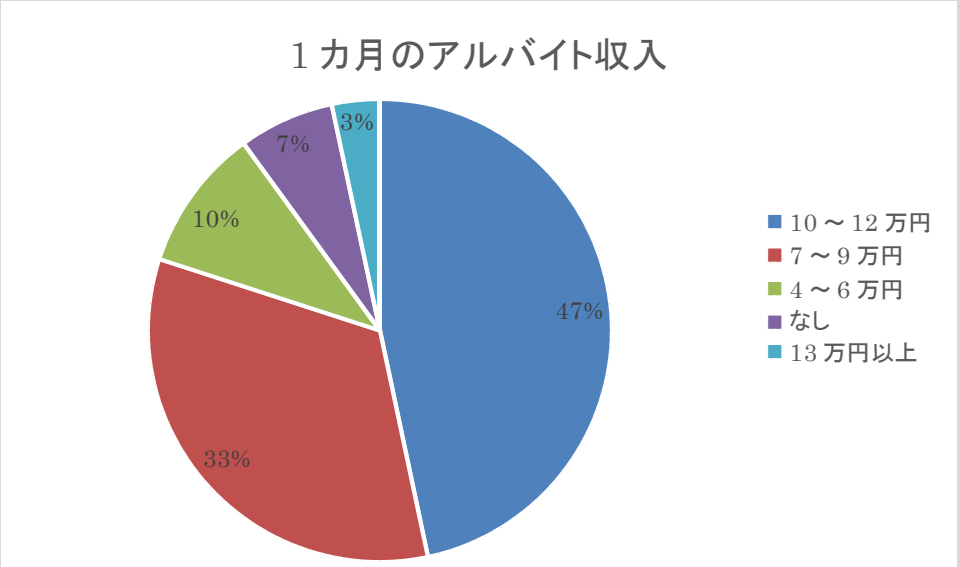
3-④　1 カ月の携帯料金（有効回答 26 人）



◎平均　8,527 円

他の支出に比べ、突出して高いのが携帯電話の通信費である。2019 年の東京での平均価格 8,642 円とほぼ同等の金額となっている。国際電話で母国へ連絡を取っているものと思われ、留学生ならではの特殊な事情と言える。
※出典：総務省 電気通信サービスに係る内外価格差に関する調査

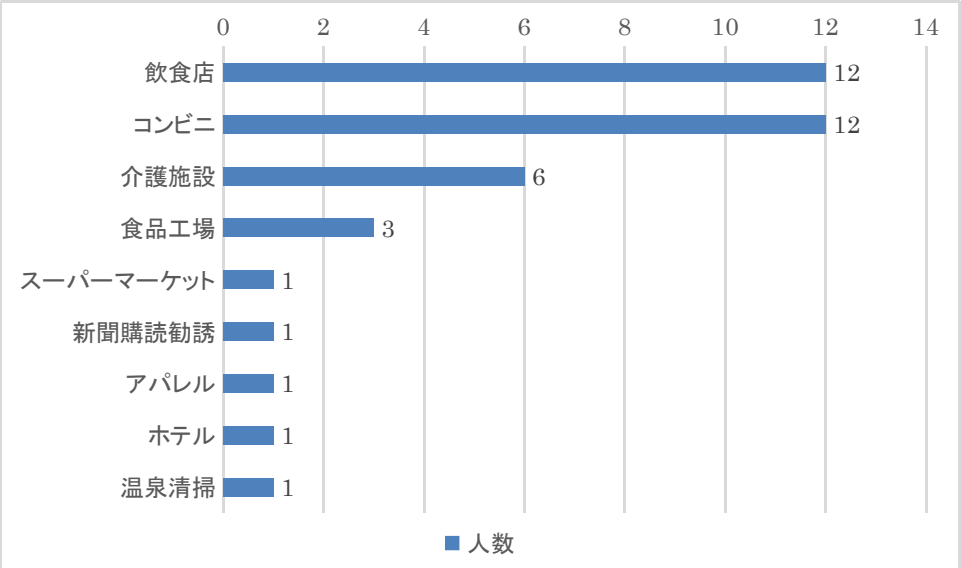
3-⑤　1 カ月のアルバイト収入



◎平均　87,500 円

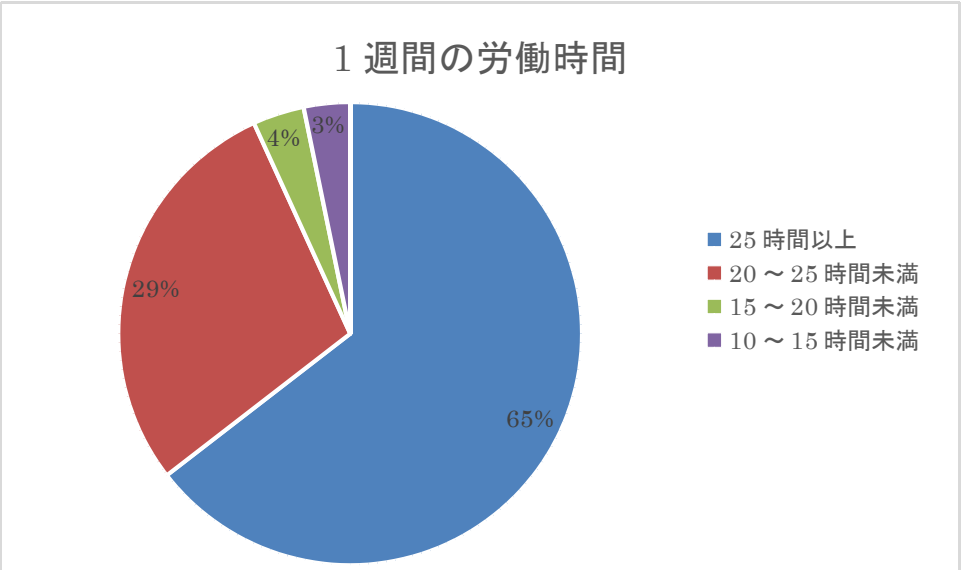
仕送りのみで生活している留学生は少なく、ほとんどがなんらかのアルバイトに従事している。留学生に許される 1 週間に 28 時間までの労働を考えれば、平均 87,500 円という数字は、ほぼ限界に近い。

3-⑥　アルバイト先（複数回答）



コンビニ大手では、留学生のための研修制度が整っている。その影響もあるのか、アルバイト先としてはコンビニ、飲食店が人気である。3 位は介護施設となっており、日本の超高齢社会の一端を留学生が支えていることがわかる。

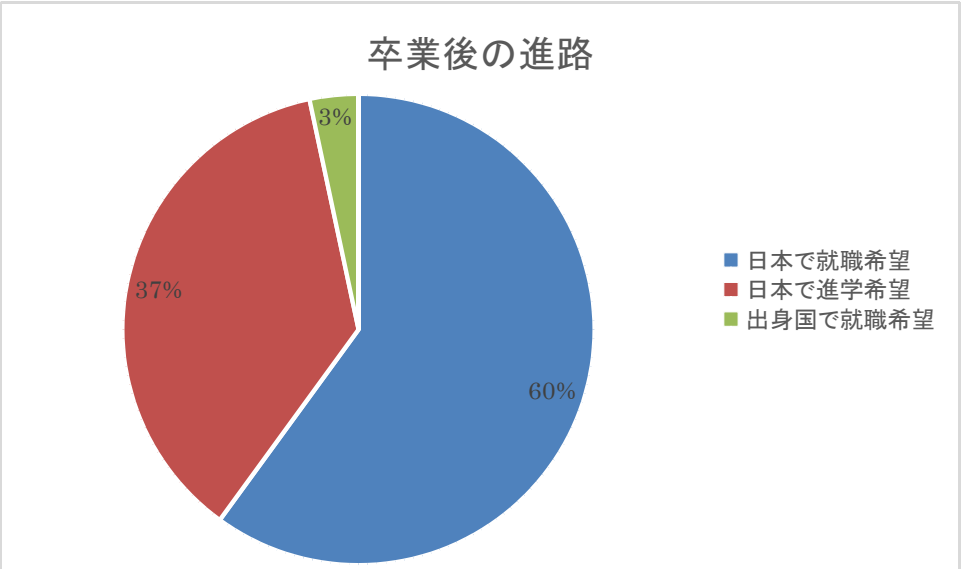
3-⑦　1 週間の労働時間（有効回答 28 人）



1 週間に 20 時間以上働く留学生が 9 割を越え、6 割以上が 1 週間に 28 時間までと決められた労働時間の限界近くまで働いている。収入が必要な留学生の事情と、人手不足の日本の事情、おそらく両方の影響が表れている。

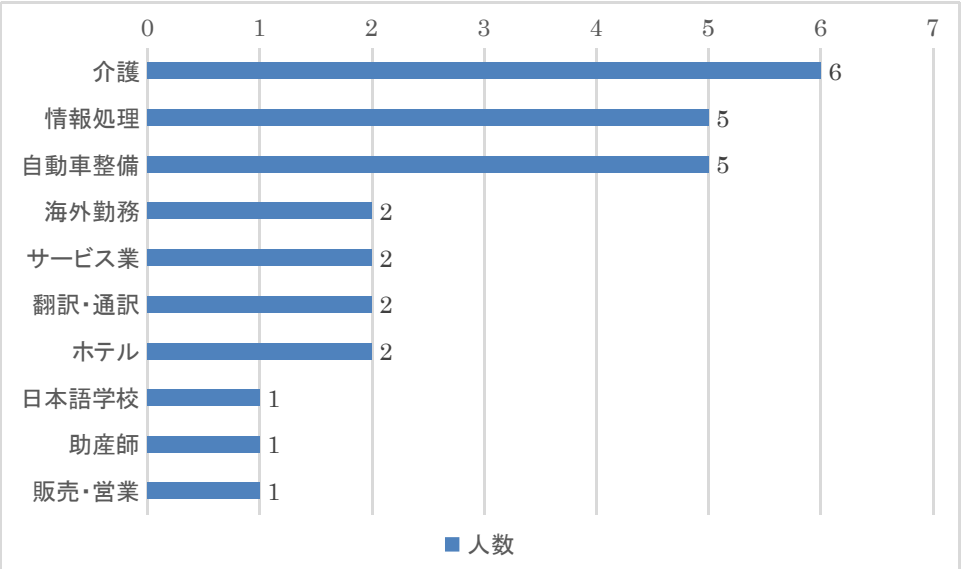
4. 卒業後の展望

4-①　卒業後の進路



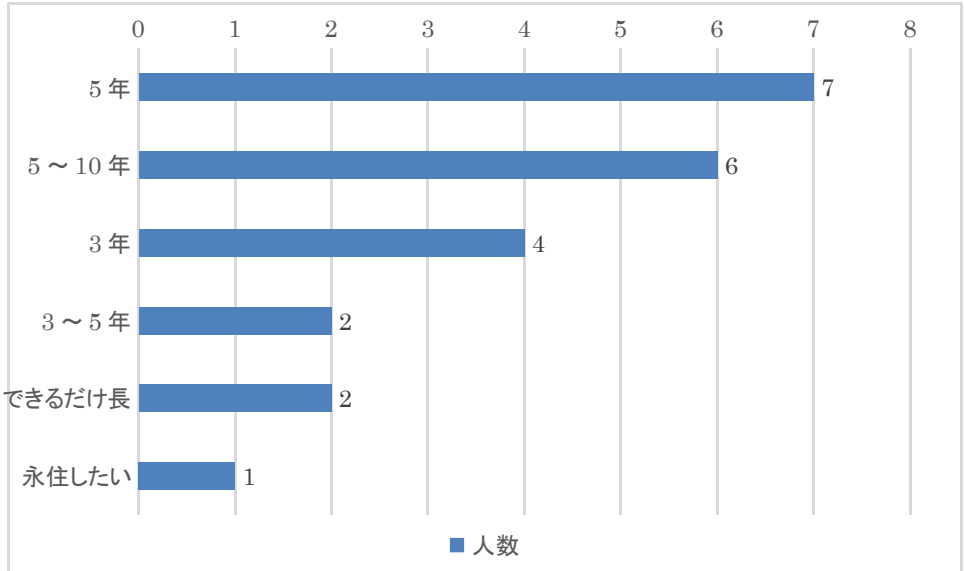
日本で進学希望の留学生も、その先の卒業後は日本での就職を考えている人が多い。留学生の大半は、日本での働き手となりうる。

4-②　日本でどのような仕事をしたいか（複数回答）



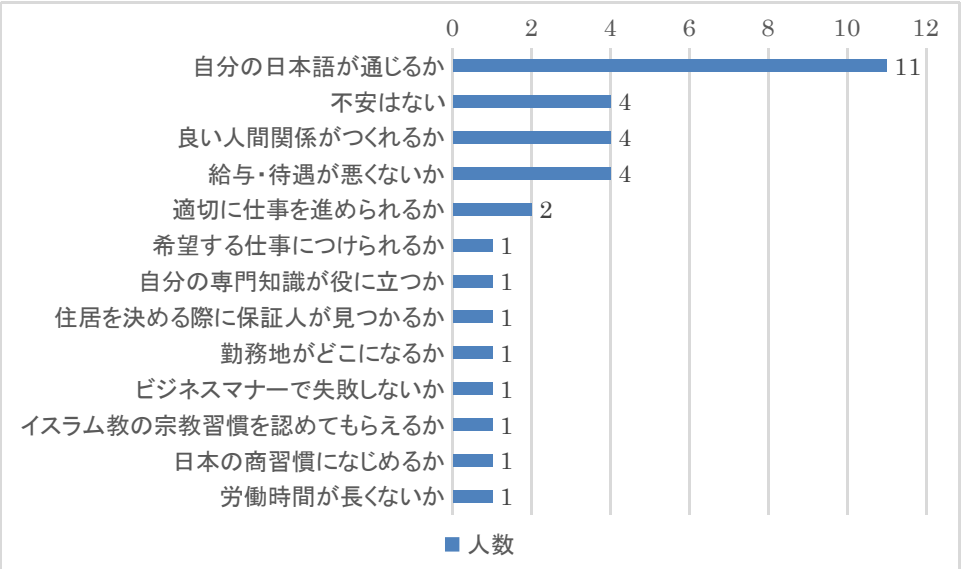
回答に大きな偏りはなく、学校で学んだ知識を生かして、自分の夢を叶えようとしていることがわかる。それでも 1 位が介護の仕事というのは注目で、人手不足に悩む同業界において無視できない存在である。

4-③　日本で何年くらい働きたいか



3～5 年の範囲で答えた人数を合わせると約 6 割。日本で永住することまでは考えておらず、一定年数働いたら自国へ帰るライフプランを持つ留学生が多い。終身雇用へのニーズが高い日本人とは感覚の違いがある。

4-④　日本での就職にあたって不安なこと（複数回答）



日本語への不安を除けば、日本人の若者が就職にあたって不安に感じることと大差はないようだ。宗教への理解、住居の保証人の対応などは、雇用する日本企業側が考えるべき要件である。

Ⅲ. 調査結果まとめ

＜1＞留学生の属性

・ベトナムからの留学生がかなり増えている。次いでネパールからの留学生が多く、中国や韓国からの留学生は減少しているようだ。

・男女比に差はなく、年齢は20代が中心。

＜2＞留学の目的と日本語能力

・多くの留学生は、日本で働くため、もしくは働く技術を身に付けるために来日している。

・8割以上の留学生がN3以上の日本語能力を持っている。

・それでも日本語への不安があるのか、日本語学校に通っている留学生が6割を越える。

＜3＞留学生の暮らしぶり

・家賃、光熱費、食費は、1人暮らしの日本人にくらべてかなり抑えている。

・シェアハウス、ルームシェアなどの利用も考えられ、おそらく食事は自炊が中心。

・支出で突出しているのが携帯電話の料金で、日本人の平均並。自国の家族への連絡ではないかと思われる。

・ほぼ全員がなんらかのアルバイトを行っている。

・１週間に許される労働時間28時間、めいっぱい働いている留学生が多い。

・アルバイト先は、コンビニと飲食店が人気。

＜4＞卒業後の展望

・ほぼ全員が日本での就職、進学を望んでいる。

・日本での就職先は、自分の専門知識を生かしたいと考えている人が多い。

・日本での就職を希望していても永住までは考えておらず、ある程度の年数を働いたら自国に帰ることを想定している。

・就職にあたっては、日本語能力に不安を感じている人が多い。